

# 「前期選抜」を検証

## 県教委 2万人アンケート

読日 4月 6日

公立高の受験機会を前期と後期の2回に分ける現行制度は、県教委が05年度入試から導入した。前期選抜は定員の10～50%（コースを除く普通科は上限20%）を募集。ペーパーテストや実技、面接などで合格者を決める。

しかし、大半の生徒が前期にも出願するため多数の「不合格者」が出ることも、入試期間が長期化し、生徒と学校の双方に負担が大きい「など」と見直しを求めた声が出た。山本隆生県教育長が3月の議会答弁で検証を約束していた。

アンケートは国公立の全中学校と高校、教育事務所に発送。今春の入試を経験した公立高の1年生（約1万2500人）と全職と保護者の一環、中学と高校の教職員に前期・後期選抜への評価とその理由を選択式で問う。

県教委は6月末までに各学校から集計表を受け取り、7月を境に調査結果をまとめる。これに今秋にかけて検討を重ね、11年度以降の方向性を見いだす方針だ。

### 公立高入試

公立高入試に「前期選抜」を導入した入試制度改革の成果と課題を検証するため、県教委は県内の公立高1年生全員と保護者、中学、高校の教職員を対象にしたアンケート調査を始めた。対象者約2万人の大規模調査で、入試制度を定める方針の基礎資料とする。